



患者さんのみずから治る力を引き出せば、 歯周基本治療で重度歯周病もここまで治る

患者さんの治す力を引き出す歯周基本治療

トータルから口をみる

谷口威夫 著

A4 判変／160 頁／定価 11,000 円（本体 10,000 円＋税 10%）／医歯薬出版（2024 年 9 月）

本書は、歯周基本治療の細かいノウハウを学ぶというよりは、歯科医療従事者として歯周基本治療にどんな目標をもち、どのような覚悟で臨むべきかを考えるための本であると思います。また、長年歯周基本治療に取り組んできた著者の歯科医師人生を覗き、触れることができる 1 冊になっています。

著者は『トータルから口をみる：患者さんが自ら治す歯科医療をめざして』（1999 年、松風）という書籍を執筆しています。同書と本書を読み比べてみると、当時から貫かれていた歯周基本治療に対する信念が、25 年経ったいまも変わらずにあることがわかります。その信念とは、「私たち歯科医療従事者はあくまでも脇役で、主役は患者さんである」ということです。その患者さんにとってもっとも正しいと思える治療、患者さんの一生を考えた治療をするために、「トータルから口をみる」ことが重要なのです。本書ではその実現にあたって、「① 患者さんにとって最良の治療が、② 患者さんから学んだものか、③ すこしでも自然に近いか、④ 子孫に対して責任がもてる治療かを考える必要がある」と述べています。

さらに、本書では患者さんの信頼を獲得し歯周基本治療を成功させるための「8 つのステップ」も示されています。この 8 つのステップである「主訴の解決」「オリエンテーション」「診

査」「診断」「OHI」「治療」「口腔機能回復治療」「再発予防」に項目立てて歯周基本治療を成功に導くコツが述べられていますが、どれもオリジナリティがあり、著者の診療室の様子が目に浮かんできます。たとえば「主訴の解決」では、まず患者さんの不安を取り除いてあげることが、信頼を得るうえで最初に行うべきもっとも大切なことだと述べられています。「ブリッジ（実は義歯）をかけてある差し歯（実は前装冠）が歯槽膿漏（実は歯根膜炎）で歯ぐきが腐って（?）ウミが出た」と患者さんがおっしゃっても、いちいち訂正するのではなく、まずは共感して丁寧に患者さんの声を聴くことが重要なのです。

本書から著者の患者さん第一の姿勢を感じますが、それと同時に、いっしょに働くスタッフを“同志”と捉えてくれていると感じます。実際に、「みずからの考えを理解してくれるスタッフなしには、自分の診療は成り立たなかった」と講演などで明言されています。

筆者（山岸）は、かつて谷口歯科医院（長野市）で著者の谷口とともに勤務していました。本書には、かつて谷口歯科医院のスタッフの 1 人であった私の“歯科衛生士としての足跡”が確実に残っていました。そのことにあらためて感謝の念を覚えるとともに、この医院の一員として働くことができたという誇りを感じることができました。